

2 関西広域連合への参加について

台風12号の被害を受けた本県に対し、関西広域連合から支援の申し入れがあり、その申し入れを正式に受け入れたという一連の出来事は、関西広域連合に参加するのか、今までの考えのとおり広域連携で良いのか、どちらの方が復旧・復興に向けスムーズなのかを考える判断材料の一つになったと思う。台風12号による大災害を経験した今、関西広域連合への参加に対する知事の所見を改めて伺いたい。

（知事答弁）

まず、私が「関西広域連合に支援要請をするつもりはない」と言った旨の報道が一部マスコミによりなされましたが、これまで、関西広域連合からの支援申し入れに対し、私が「断ったこと」はありませんし、「断るよう事務方に指示したこと」もないことを、改めて申し上げます。

今般の台風12号の災害に際してましては、近隣府県をはじめ全国から温かい支援の手を差し伸べていただいおり、既に何人かの知事様には、お礼の電話を差し上げたところでございます。

関西広域連合からの支援申し入れも、非常にありがたい話であり、広域連合に参加していなくても、土木技術職員の派遣について、関西広域連合の構成団体である和歌山県と同じタイミングで、同じような扱いで、9月20日に支援の決定をしていただくなど、その迅速な対応に、深く感謝を申し上げているところでございます。

一方、福井県や新潟県からも支援申し入れをいただいております。災害支援での広域的な連携の重要性を感じているところでございます。

災害時の支援・受援につきましては、今後、県の防災計画を見直す中で、計画の中に位置づけていきたいと考えております。関西広域連合とも連携団体として積極的に連携するとともに、他の府県とも同じように、災害時の連携を行っていきたいと考えております。

今回の災害の経験により、関西広域連合への参加についての私の考え方は、先ほど新谷議員にお答えしたとおりでございます。

構成団体の事務の持ち寄り等の広域連合が持つ4つの特徴に起因する課題や、権限の範囲が不明確で責任の所在があいまいであること等の関西広域連合固有の3つの課題が解決されておられません。一方関西広域連合以外の多くの府県からもご支援をいただいております。今回の災害にあたっては、国及びこのような県との連携で十分対応できるものと考えております。

(森山議員)

「奈良県だけが一緒に汗をかかない」ことよりも次の世代のために「関西が一丸となって前例のないことに挑んだ、しかし結果として失敗した」ことの方が、県民の理解が大きいのではないかと。

(知事答弁)

森山議員が仰いました、強い新しい関西を創ることについては本当に賛成でございます。

今、昔の経験を思い出しましたが、中央省庁にいるときに「関西を元気にする官僚の会」というのをつくりまして、その事務局長をしたことがございます。関西の方のカウンターパートは当時の大阪市長、西田さんという方だったと思いますが、関西をどのように元気にしようか、中央省庁のある程度の勢力を関西に持っていく道はないかというようなことを研究しておりました。

国の勢力をどのように地域に持っていくかというのは、各地域いろいろ考えておられることとございますが、関西におきましては関西空港の整備とか、今度のリニアのこととか、いろいろな大プロジェクトを持って行くということが、中央省庁との関係でございました。

今後国との関係が、この広域連合との関係等々で大きな焦点になってくると思います。私は関西全体をまだ考えるほどの立場ではないですが、1員としてまず奈良がどのように発展していくかということを考える責任がまず第一だと思っております。そのために、ひいては関西が元気になるように、奈良という特色のある地域が奈良にあることによって関西の特色が大いに引き出せるということもあろうかと思っております。

組織というのはいろんな難しい制約がありますが、一緒に考えて連携をして努力するというのは基本的にとっても大事なことでございますし、そのような関係はまだ続いておりますので、そのようなことは努力していきたいと思っております。